



JEG ニュースレター 162号

www.jegschweiz.com

2017年9月9日発行

小さな証

荒んだ青春時代から、音楽の勉強に来たスイスでイエスに出会うまでの証。 P2

講壇交換

今年も姉妹教会フランクフルト日本語福音キリスト教会との講壇交換があり、矢吹牧師をお迎えしました。 P3

作田兄弟の近況

40年に渡るフランス生活から、一昨年、本帰国された作田銀也・安子兄弟の近況をお知らせします。 P4

集いの証/感想

第34回キリスト者の集い参加者の証/感想の編集が今年もスイスJEGに委託されました。 P3

小さな祈り

主がして下さったことの偉大さを忘れず、誰に対しても、主がお示しになった愛を、少しでも行うことができるよう、助けてください。
あなただけが、愛といのちの源ですから。



私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私の内に生きておられるのです。 ヨーロッパ・キリスト者の集いテーマ聖句 ガラテヤ書2章20節

バッハが音楽監督を勤め、マタイ受難曲などが初演され、マルチン・ルターが説教したライプチヒのトーマス教会。この由緒ある教会堂で第34回ヨーロッパ・キリスト者の集い“賛美の午後”が開催されました。



ちいさな証

共に祈り賛美する喜び

佐藤裕希恵

スイス・バーゼル家庭集会



ハレルヤ！主はなんと偉大で恵み深いお方なのでしょう。これを書いている今、私の心は主への感謝と恵みでいっぱいです。

私は東京に生まれ育ちましたが、家族にクリスチャンは一人もおりません。中学生の頃進路に関する両親との不和から鬱状態が続き自傷行為を繰り返して

していました。自殺をする勇気もなく、ただただ苦しい毎日でした。大学生になって両親との関係は表面的にはよくなりましたが心の中はまだ荒んでいて、なんとかして自分の人生を肯定し、自分自身を人に認めてもらおうともがいていました。

大学で声楽を勉強していたのでキリスト教宗教曲をよく歌っていましたが、キリスト教のことはよくわからないまま演奏していました。そんな中、ひょんなことからバーゼルへ留学する道が開かれました。当時はまだイエス様に出会っておらず、何とかして自分で道を切り開こうとしていましたが、これも全て主の導きでした。

歌のために聖書を学んでみたいと思っていたところに、オルガニストの先輩からバーゼルの家庭集会へ誘われ通うようになりました。またヨーロッパの美術館や教会を見学するのが好きで、特に宗教画に興味を持つようになりました。日本では見なかったたくさんの宗教画や教会であふれる街々をみて、「技術の限りをもってこんなすごい教会を建て、ずっと昔から今この時まで礼拝をし続けているなんて、もしかして神様って嘘じゃないのかも

しれない。じゃなかったら、今私の目の前にあるこれは何だろう？」と感じるようになっていました。

またスコラで出会ったクリスチャンの日系ブラジルの方との交際が始まり（現在の婚約者）、目の前で誰かが祈る姿をよく見るようになりました。気がついたら、たくさんのクリスチャン要素に囲まれて生活していたのです。神様のご計画、まさに追い込み漁！

そんなある日実家の愛犬に難病が見つかりました。大切な家族の手術が失敗すれば死んでしまうという時に、家

庭集会の皆やパートナーがいつもしているように自分も祈ってみました。するとその瞬間に言葉では言い表せないようなものすごいエネルギーを感じて、神様がそこにいらっしゃるのだということを理解しました。涙が止まらなくなりました。

その後、家庭集会にマイヤー先生が来てくださるようになり、じつくりと時間をかけて洗礼準備を導いていただきました。主との関係をしっかりと築き上げるために必要な時間でした。今は心から救いの確信が得られています。洗礼の決心から3年後、今年の7月にJEGで洗礼を授かりました。

ここ数日は信仰を持つ友人たちとの深い交わりが毎日のように与えられて、共に祈り主を賛美することができる人がいる喜びと恵みをかみしめています。バーゼルの地で主が与えてくださった信仰、共に主を見上げ歩いていく主にある家族。これさえあれば、先が見えないこれからの日本での生活も、きっと道をそれることなく主に仕え歩いていくことができると信じています。皆さまに、そして主に、心から感謝を申し上げます。



1、洗礼式 バーゼルにて声楽を学ぶ間に主イエスに出会い、バーゼル家庭集会に通われ、恵みと信仰によって救われた佐藤裕希恵姉が、7月スイス日本語福音キリスト教会において、信仰の導き手でもあるマルチン・マイヤー牧師の司式によって洗礼を受けられました。心から主に感謝し賛美します！佐藤姉の証は、短くしたものを”小さな証”でお読みいただけるほか、波乱に富んだ半生を述べた洗礼式における証をビデオでも視聴いただけます。



<https://www.youtube.com/watch?v=ctx9DwAA8tl>

2、講壇交換 昨年に引き続きスイスJEGは、姉妹教会であるフランクフルト日本語福音キリスト教会と講壇交換を行い、7月23日に矢吹博牧師をお迎えし、日曜礼拝を守りました。また矢吹博牧師ご夫妻は、その前日に、チューリッヒ近郊のフォルケトヴィルにおいて、また、月曜日にはアッペンツェル地方を観光の後、サンクトガーレンの家庭集会にて心に深く響くお話をされ、スイスJEGの姉妹との親交を深めました。矢吹牧師のメッセージ”愛する喜び”（ヨハネの福音書21章15-22から）は、スイスJEGのHP：礼拝メッセージサイトで視聴できます。

3、新シリーズ マイヤー・マルチン牧師による”霊的成長シリーズ”が、6月18日の説教”キリストに従うことに於いて成長する”で終了し、8月13日から新しいシリーズ”キリストに出会った人”から、”バプテスマのヨハネ”の説教をもって開始されました。



また、8月27日は、イスラエルで会議ならびに休暇を過ごされるマイヤー牧師に替わって（8月21日から30日）シュトゥットガルトから、浅野康牧師をお迎えして日曜礼拝を守りました。浅野牧師は、スイスJEGにおける今年2度目のご奉仕で、聖書にしっかりと立脚した明快で優しい語り口で、日毎に聖書とみことばに親しむことにおいてこそ霊的成長が果たせることを解かれました。

新シリーズのパワーポイントが入ったマイヤー牧師、ならびに浅野牧師のメッセージは、スイスJEG-HPの説教サイトでご覧頂けます。[/スイスJEGのメッセージ - スイス日本語福音キリスト教会のホームページによるこそ！](#)

4、祈り会 しばらくお休みをしていた礼拝に先立つ祈り会が7月から再開されました。ウスターの旧会堂において長年クンツ・ルツ元宣教師、ゲルスタ・ウエンディ師、クスター節子姉らが中心になって14時から、教会や兄弟姉妹の課題を持ち合って祈り会を開いていたものです。毎月、第2日曜日の14時から、会堂への階段を降りた右手の部屋で開かれ、途中からの入室も全く差し支えないので、多くの姉妹が参加されることを願っています。

5、BBQ大会 8月19日(土)の午後1時より、昨年に引き続き南ドイツ福音ネットワークに属する各地の”聖書の学び会”のメンバーがシュヴァルツヴァルトのマイヤー宅に集まり、BBQ大会が行われました。大会には、スイスJEGからも参加者があって、マイヤー牧師の聖書のお話のあと、それぞれ持参した肉を焼き、親しい交わりを持ちました。

6、主はわたしの歌 北ドイツJCFのフーヴェク恵姉から、水野源三さんの詩をもとに、武義和氏（土浦めぐみ教会）が子供たちのために作曲された”主はわたしの歌”のCDがスイスJEGに贈呈されました。ぜひお聴きになって下さい。



7、第34回ヨーロッパ・キリスト者の集い 宗教改革500周年を記念して、今年のヨーロッパ・キリスト者の集いは、バッハ、メンデルスゾーン、そしてルターのゆかりの地、美しい古都ライプツヒヒで8月3日から6日まで”キリスト

が内に生きる”（ガラテヤ人への手紙2章20節）をテーマに開催されました。今回の集いには340名余りと過去最高の参加者があり、特に日本からルターゆかりの地の訪問を兼ね100名近い参加者がありました。（スイスJEGからは20名が参加。）

スイスJEGが制作管理するオフィシャル・ホームページには、今回の集いの記録ビデオほか映像記録、講演録音、資料等がアップロードされていますのでご利用ください。<https://www.europetsudoi.net/>第34回-leipzig-特設サイト/ また、ニュースレターには、スイスJEGの編集する”集いの証/感想文集”が添付されていますので、祝福と恵みに満ちた今回の集いを追体験して下さい。

第35回ヨーロッパ・キリスト者の集いは、2018年8月2日（木）から5日（日）までスコットランドのエディンバラで、”キリスト者の変化と成長～ローマ12:2から”をテーマに開催されます。その第一信ならびに紹介ビデオもオフィシャルサイトよりご覧いただけます。2019年の集いは、東欧解放30周年にあたってルーマニアのクルジュ・ナポカ市において、フランクフルト日本語福音キリスト教会とトランシルバニア日本語集会の共催によって「変わらないもの、変わるもの」をテーマに開催される予定です。

8、世界各地から月報/ニュースレター&メルマガが届いています。オーニング宣教師、クンツ・プスキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師、ローゼンクランツNL、フーサー香織・シモン宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会バルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。

7. 8月の愛餐会のスナップ



日出ずる国から



三浦半島西海岸

全てを備えてくださった主 三浦半島西海岸は 作田銀也兄より



主の御名を賛美いたします。家内、安子は主の深い憐れみと導きにより、昨年10月より横須賀市芦名にある特養「衣笠ホーム」に入居し

ています。

一方、私はホームから徒歩5分のところのアパートで生活しています。永くフランスで過ごした私共に取りまして、40年ぶりの日本、特に今まで一度も足を踏み入れたことのない三浦半島での生活に対して一抹の不安がありました。しかしながら、これらの不安は一瞬にして吹き飛ばされました。

ホームは日本医療伝道会の経営で、土、日を除く毎朝礼拝があり、安子と一緒に出席しています。礼拝メッセージは、ホーム職員のほか、近隣の教会の牧師とホームの母体である衣笠病院のお二人のチャプレンが担当されています。チャプレンのお一人は私どもがフランスに発つ40数年前所属していた日本基督教団神戸栄光教会で副牧師をされていた方でした。涙の対面をしたことは言うまでもありません。もうお一方は10年前、ケルン・ボン日本語キリスト教会に就任予定の方でした。



デュッセルドルフの竹内家と

さらにホーム長はパリ教会初期に良い働きをされた兄姉の親友の方でした。アパート探し、契約、市役所での様々な登録がこの方の助けにより一日で完了しました。未

知の世界に神様はすべてを備えて下さっていたのです。驚きと感謝です。

毎朝の礼拝には、入居者110名の内、車椅子の人が35~40名、歩ける方が数名、それに職員を加えて約50名が参加します。驚くべきことは、礼拝出席者の80%がノンクリスチャンだということです。さらに入居者の多くは介護度が4~5の認知症の方々です。中には元牧師や元牧師夫人もおられます。

ノンクリスチャンの方もかなり難しいと思われる説教を理解し、讃美歌を歌い、主の祈りやアーメンを共に唱えます。しかし、礼拝堂を出た途端、自分がどこにいたのかが分からない方々がほとんどです。礼拝の間だけでも、神様の愛を感じることができれば素晴らしいことです。



安子の指定席は講壇の真ん前です。一人で立つことも歩くこともできない安子にとって毎朝の礼拝は喜びであり、大きな慰めです。私は最後尾で讃美歌を大きな声で歌うことでお手伝いをしています。朝の礼拝のほか夕食と就眠までの手伝いに毎日通い、一緒にお祈りをして安子の一日が終わります。

衣笠ホームに入居をして1年が経ちますが、多くの方々が見舞いに来てくださり、楽しい時を過ごすことができました。皆様のお祈りと励ましに心から感謝いたします。



「宣教の声」発刊から35年 ミッション・宣教の声は 黒田禎一郎牧師より



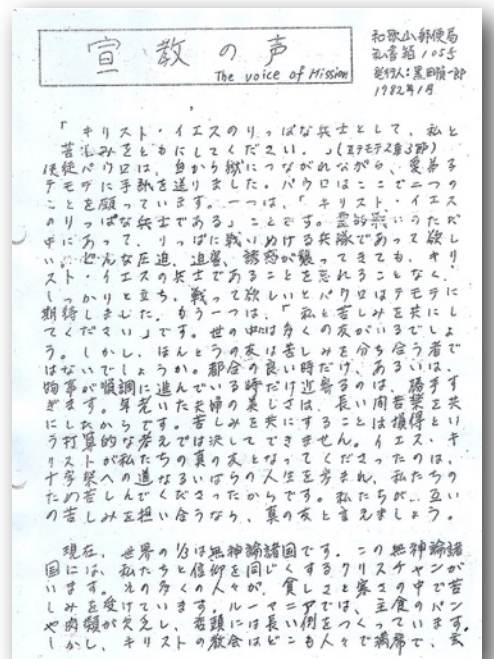
今から35年以上前、世界情勢は大きく異なっていました。それは東西欧州が対立する冷戦構造時代で、軍事的にNATO(北大西洋条約機構)とワルシャワ条約

機構の軍事同盟が対立し、常に緊張状態にありました。その象徴が「ベルリンの壁」でした。

第二次世界大戦後ドイツは、東西に分断され西側がNATO支配参加国下に、東側はワルシャワ条約機構のソ連(ロシア)支配下に置か



モルダヴィアの刑務所で看守達と



宣教の声 1982年1月号

れました。旧東独内にあったベルリンはさらに四分割され、四か国の占領軍下に置かれました。その当時の大問題は、東側に住むクリスチャンと教会が非常な迫害を受けていたこと

でした。社会主義、共産主義、無神論主義思想が支配した国々では、キリストの名のために、聖徒たちは大きな迫害を受けました。私は不思議なことにその聖徒との親交が与えられ、現地から生の情報が入ってきました。そこで東側の世界情勢を聖徒に伝えるために書いたのが、「宣教の声」第一号でした。



35年前、Arnold Rose世界巡回伝道師の通訳で。

その後、世界の潮流は大きく変化し、「ベルリンの壁」(1989年)が崩壊しました。冷戦構造の終焉によって、世界の潮流はグローバル化(人、モノ、カネ、情報の自由化)へと大きく動き、日

本製品と日本人が海外進出する時代となりました。私はかつてドイツで宣教師でありましたので、必然的に海外邦人宣教の働きが加わりました。世界各地に離散した多くの邦人に、キリストの宣教を伝える働きが始まりました。しかし昨今のEUと米国を見ると、世界の潮流は「ベルリンの壁」から「メキシコの壁」へ推移しつつあるようです。

「宣教の声」はこのような時流の中、聖徒たちの情報を提供してきました。私が機関紙を通して願うことは、先ず祈りに必要な情報を提供することです(祈禱課題)。次にどんな時代にあっても、キリストの大宣教命令に従うことです。これからも、「宣教の声」が忠実にこの働きをすることができるよう覚えてくだされば幸いです。

ホームページ: <http://www.vomj.jp>
宣教の声 The Voice of Mission



デザインが一新され美しく読みやすくなった8月号

ERF は、ヨーロッパ (Europe) でキリストに出会った私たちが、帰国後に、地域教会 (Ecclesia) に根差し実を結ぶために、互いに励まし合う (Encourage) ことを目的としたグループです。

来たる11月3日(金・祝)~4日(土)軽井沢において、「ERF一泊リトリート」を開催いたします。詳細をご希望の方は、以下までお問い合わせ下さい。
E-mail: erf.japan@gmail.com
Tel: +81-(0)90-8087-2749 (長井)

ERF RETREAT
—私は、いつまでも、主の家に住みたい。—

賛美あり! 笑いあり! 涙あり?
ヨーロッパでキリストに出会った
信仰の仲間と励ましあひましよう♡

主は私の羊飼いです
テーマ聖句 詩篇23篇

2017/11/3(Fri・祝)~11/4(Sat)
■セッション開始: 16:30~
■会場: 軽井沢 文化軽井沢山荘
■主催: European Returnees' Fellowship



ヨーロッパの日本語集会から
神の愛が浸透するように!
バルセロナ日本語で聖書を読む会は
下山由紀子姉から



8月17日午後5時過ぎに、バルセロナの目抜き通りランブラス通りで発生したテロ事件(イスラム過激派が殺傷を目的に散歩を楽しむ人々の中に車を暴走させる犯行でバルセロナ市民と観光客ら13人が死亡し、100人以上が負傷。9月1日時点で死亡者合計16人)につきましては、大変多くの方々からお見舞いのお便りをいただきました。お便りをくださった方、お祈りしてくださった方、皆さまに心より感謝申し上げます。

スペインの歴史の中で、イスラム教徒が紀元711年から1492年までずっとイベリア半島を部分的に占領していたことから、ISは「スペインよ、お前らの土地は我々の祖父の土地だ。必ず取り返し、お前たちをキリスト教から解放する!」と最初から不気味なビデオメッセージを送りつけて息巻いていましたので、スペイン警察は厳重な警備を怠らず、今まで1度も攻撃を許さない姿勢で警護してきましたが、ついに事件になってしまいました。



事件現場に置かれたラウソク

奇跡的にも巻き込まれた日本人はひとりもなく、集会関係者にも問題ありませんでしたが、それでもこのことで「良かった」とはとんでも思えず、毎朝、今日の命が与えられたことの重みを痛感しています。被害者の方々の魂の救いと、彼らに近い方々が負った深い心の傷が慰められるよう、また神の愛が世界に浸透するために私たちが働くことが出来るよう祈っています。皆様からのお祈り、本当にありがとうございます。